

光学医療診療科とは



内視鏡科のことで、胃と大腸をはじめとした消化管の内視鏡による検査（鼻カメラ、胃カメラ、小腸カメラ、大腸カメラなど）と治療を専門に行っています。その診断結果においてポリープ切除や早期の食道・胃・大腸がんには、内視鏡的粘膜切除術（EMR）や内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）などの高度治療を行なっています。進行がんには抗がん剤や放射線治療までは当科で行い、他科とも密に連携してスムーズな治療を行います。

内視鏡検査と治療の対象となる疾患

逆流性食道炎、胃炎（ピロリ関連性胃炎も含む）、十二指腸炎、食道潰瘍、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、上部消化管出血、細菌性腸炎、小腸炎大腸炎、食道ポリープ、胃ポリープ、小腸ポリープ、大腸ポリープ、大腸潰瘍（潰瘍性大腸炎を含む）、大腸憩室、虚血性腸炎、下部消化管出血、食道粘膜下腫瘍、胃粘膜下腫瘍、大腸粘膜下腫瘍、食道がん、胃がん、十二指腸がん、大腸がん、などの内視鏡検査を必要とする疾患全てです。

さらに炎症性腸疾患の潰瘍性大腸炎では、現在、渡邊部長の外来のみでも120人以上の患者様が通院されています。潰瘍性大腸炎の患者様の外来 / 入院加療におけるメサラジン内服薬はもちろん、顆粒球吸着療法（G-CAP）、ステロイド静注、免疫調節薬、タクロリムス（プロGRAF）、インフリキシマブ（レミケード）、アダリムマブ（ヒュミラ）、ゴリムマブ（シンポニー）などにおいても十分な使用経験があります。

また、今回掲載した胃粘膜下腫瘍の超音波内視鏡検査（EUS）、生検（FNA）、治療も湯原医長を中心に行っております。

当科の内視鏡治療（ESD）の特徴

当院では 2006 年に当科部長が初めて胃の ESD 治療を導入してから 10 年以上の経験があります。ESD とは、粘膜にとどまっている早期がんに対して専用の器具を使うことにより、比較的広範囲の病変でも切除できる内視鏡手術です。1~2 時間程度の治療時間で、早期のがんなら完治も望め、体に負担の少ない内視鏡検査や治療を受けてもらうことができます。

また大腸の ESD 治療では全国の先端医療研究 69 施設に内視鏡学会から選ばれ、2010 年に参加しました。この結果から多くの患者さんが 2012 年から保険での治療が受けられるようになっていきます。この光学医療診療科は 2015 年 4 月に新設され、内視鏡キャリア 15 年以上の消化器内視鏡専門医かつ学会本部評議員がハイレベルの内視鏡検査・治療を行う専門科です。安心して内視鏡を受けていただくことができます。

診療方針

患者さんに、ハイレベルな内視鏡検査や治療を楽に、安全に、安心して受けてもらうこと。その上で患者さんやご家族が受けてよかったと思えるような、満足してもらえる治療をすることを目標としています。そのためには、やはりコミュニケーションが大切です。事前に治療内容やリスクについてしっかりとお話をし、納得の上で治療を受けてもらっています。

今後の展開

昨年 4 月から当院人間ドックの内視鏡検査の総括と同 10 月から世田谷胃がん検診の内視鏡検査も行い、がん予防の内視鏡検診にも力を入れております。これにより内視鏡での早期発見から治療までのコースが完結しています。より良い内視鏡医療のご提供にご期待下さい。

